

京都教区時報

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp>

2頁 三重地区聖書講座「福音」一場 修師

3頁 聖書講座シリーズ「マルコ福音書」九里 彰師

発行 京都司教区
責任者 村上透磨
京都市中京区河原町
三条上ル
カトリック会館
FAX
075-211-3041
「教区時報」宛と明記

点訳版「京都教区時報」(無料)
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまで申込みください。
TEL・FAX 0794-31-8601



共同体の分かち合い

「人はひとりだけでは生きてい
くことができない」ということは、
皆様もご存知のことでしょう。人
はひとりでは生まれないし、人の
支えが必要な時期が誰にも必ずあ
るのです。誕生の時、重荷を負つ
た時、老いた時などなど。

その時にそっと添えられた手が
あったことを知り、感謝と喜びに
包まれます。

だから、隣近所や地域の方々と
共に諸問題にかかわっていく中で
親しく語り合うのです。その人々
が今関心を持っていることに聞き
入りながら、その人の持っている
福音的価値、また行っている隣人
愛を互いに確認し合い、神がすで
に働いていることを互いに発見し、
発掘し合うのです。

この「分かち合い」によって私
たちは、神様のなさった良いこと
を知り、味わい、その喜びの訪れ
を告げ知らせること、つまり福音
宣教を体験することになるのです。

(写真は精華教会
での分かち合いの
スナップです)

9
2003

三重地区聖書講座 6 / 21

福音



一場修神父

- 「福音のために」
(八章三十五節、十章二十九節)

2. 「神の福音を宣べ伝える」 (一章十四節)

書において
(十六章九節)
以下の後代付
加部分を除く、
「福音」(エウ
アンゲリオン) ということばは七
回出てくる。一章一節、一章十四
節、一章十五節、八章三十五節、
十章二十九節、十三章十節、十四
章九節である。

1. 「イエス・キリストの福音」 (一章一節)

「福音」とは、「イエス・キリスト」というよい知らせである。つまり「イエスはキリストである」、「イエスは、わたしたちの救い主である」、「イエスによって、わたしたちはいのちを得た、愛する力を得た」というよい知らせである。そして、わたしたちがキリストがもたらした救いによって生きている時、わたしたちが生きていることと自体が、「福音」となるのである。

「福音」を宣べ伝えるために、イエスはわたしたちのまつただ中に入られた。全存在をかけて、「福音」を宣べ伝えられた。イエス自身が、「福音」となった。イエスをめぐるすべての出来事が、「福音」となった。イエスと出会い、生きる力、愛する力を得た人々も、「福音」となった。今も、たくさんの人々がイエスと出会い、「福音」となっているのである。

生きて」「いくことには、苦しみや痛みがともなう。特に、死の力が強く、人々が愛する力を失いつつある、この日本、この世界の中で、「福音のために生きて」いく時、激しい苦痛がともなう。しかし、この苦しみや痛みを通して、わたしたちは、「愛する力」、「生きる力」、つまり、「永遠のいのち」を得ることが出来る。

5. 「ガリラヤへ」

イエスが復活された直後、次の「福音を信じる」とは、「福音」の「中で」生きる、ということである。「福音」の中で生きるために、生き方の根本的な転換が求められる。自分の生き方をしつかりと見つめ続け、「福音」という生き方へと自分の生き方を向けて続けることが求められているのである。この「続ける」こと、それが、「悔い改める」ことなのである。

三重地区聖書講座

—福音・宣教・共同体—

奈良地区に統いて三重地区でも聖書講座が始められました。六月二十一日(土)一場修師、七月二十六日(土)大塚司教、十月二十一日(土)辻家直樹師。三重県カトリック研宗館で行われ、九月二十三日(祝)には西経一師の聖書講演会が行われます。本稿は、一場師の講演の要点をご本人に執筆いただきました。

来る。わたしたちは、「ガリラヤへ」行き、そこで、「イエス・キリストの福音の初め」(一章一節)から歩むよう招かれている。くりかえし、くりかえし、「初め」から歩み続けるよう招かれている。「法華經」に登場する常不輕菩薩という菩薩は、出会う人出会う人に、「あなたは必ず救われる」と告げ続けたが、わたしたちも出会う人出会う人に、くりかえしくりかえし、「福音」を告げていくよう招かれているのである。

聖書講座シリーズ「マルコ福音書を読む」6／18・19

マルコ福音書のクリスマッタス

九里 彰神父



マルコ福音
書のメインテー
ントは誰か?

マルコ福音書のメインテーマは「イエス」とは誰か?」と尋ねます。この問い合わせにペテロが答えますが、彼のメシア像は栄光の中に現れるメシアでした。そこでイエスはメシア像の修正をします。八章三十一節です。イエスはメシアは多くの苦しみをうけ、ユダヤの政治的宗教的指導者を問うこと、これをマルコは第一のテーマとしています。第二はイエスに従う弟子の姿をとおしてキリスト者とは何かということを問っています。

本日の八章二十七節～九章十三節はクライマックスの箇所ですが、福音書全体は、前半と後半にわけられ、前半ではイエスがガリラヤを中心に福音宣教する姿が描かれています。その頂点はペトロの信仰告白です。後半ではそこからエルサレムへと、十字架の死へと向かう姿が記されています。

八章二十七節でイエスは弟子達に「人々は私のことを何者だと言っているか」と質問した後、「あなたがたはわたしを何者だというの

か」と尋ねます。この問い合わせにペテロが答えますが、彼のメシア像は栄光の中に現れるメシアでした。そこでイエスはメシア像の修正をします。八章三十一節です。イエスはメシアは多くの苦しみをうけ、ユダヤの政治的宗教的指導者から排斥され、三日後に復活すると予告します。ペテロはこのよう話すイエスをいさめようとしたが、イエスは彼にむかって「サタン引き下がれ」と叱ります。なぜでしょうか。九章三十三～三十七節を見てください。弟子達が一番偉い人は誰かと議論している場面です。一番偉い人は誰かといふのは、栄光を求める人の思いであります。その頂点はペトロの信頼です。人から評価されたい、名声を得たい……。この思いはパン種のようになります。それを私は離脱は自分一人でできることで私達も持っています。しかし、イエスはこの人の思いと全く逆のことを提示します。十字架の道です。イエスのたとえを使えば皆がいやがる苦しみ、恥辱へと降りていく道です。そして、「私に

十字架の道は苦しみの道ですか

ら皆さけて通りたいと思います。私は無理ですという声が聞こえてきます。確かに困難なことは神と一致し、より大きいなる業をなすことができるのです。

十字架の道、これは私たちの道でもあるのです。感覚的領域、精神的分野のいずれにおいても神のために自己を無にすればするほど人は神と一致し、より大きいなる業をなすことができるのです。

たちが常に樹液をいただいているように神の力によってそれは可能であります。人のため、他者のために命を捨てていく、愛のうちに自分の命を放棄していく道であり、單なる自己否定ではないのです。

それは神の子キリストです。ペテロは栄光のメシアをイメージしましたが、異邦人の百人隊長は、十字架にかかる死んだ人の子を見て、本当にこの人は神の子だったと認めました。神の啓示が達成された時です。まさにイエスの道は下方へと降りていく道でした。

十字架の道、これは私たちの道でもあるのです。感覚的領域、精神的分野のいずれにおいても神のために自己を無にすればするほど人は神と一致し、より大きいなる業をなすことができるのです。

講演のお話全部を収録したテープを、希望者に五百円または六百円で頒布しています。
(211) 3484まで。
問合せ 聖書委員会 075

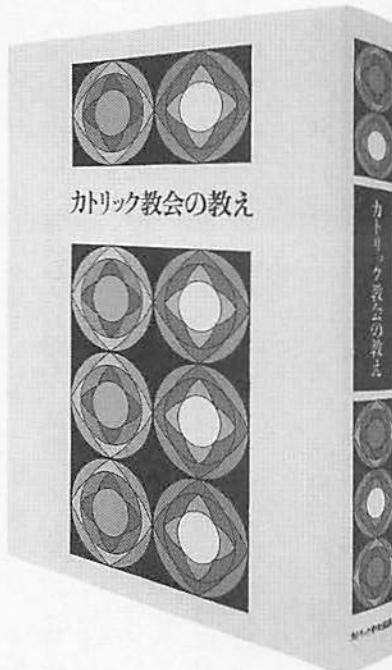
新要理書

福音センター
ニュース

「カトリック教会の教え」に親しもう！

大塚司教 推薦の言葉

いま私たちが取り組む共同宣教司牧での信仰刷新を進めるために、この新要理書の学びは非常に大切です。どうぞ、そのためにも、この貴重な研修の機会を逃さず、多くの方がこの研修会に参加されますように、強く呼びかけます。また、特に、各教会の教話・要理担当者や教会学校担当者には大変参考になると思いますので、ぜひ参加してください。



『カトリック教会の教え』を、どうすればよりよく利用できるかを学ぶために執筆者の一人である岩島忠彦師からお話をうかがいます。

講 師：岩島忠彦師（上智大学教授・イエズス会）

日 時：2003年9月13日（土） 10：00～16：00

場 所：カテドラル カトリック河原町教会

会 費：1,000円（当日集めます）

昼 食：各自ご用意ください



〒604-8855 京都市中京区壬生淵田町26 カトリック福音センター

電話番号 075-822-7123 Fax 075-822-7020

E-mail : fukuin@kyoto.catholic.jp



「開け」(年間第23主日・マルコ7章31~37)

「遊んでいるだけなのに何が悪いの。」夜の街にたむろする少年少女を捕縛すると、こういう答えがかえってくるそうです。このような答えにオトナたちは驚き、眉をひそめます。けれど少し考えてみると、日本社会のいたるところに同じような言葉が響きわたっているように思えます。自分のなかの欲求にのみ耳を傾け、「わたしがいいのに、何が悪い」とささやく声が、いつのまにか子供たちの心を浸食してはいないでしょうか。その声を敏感に聞き取った少年たちが、オトナたちを忠実に代弁しているのが冒頭の言葉であるとすれば、オトナたちが眉をひそめる相手は自分自身かもしれないのです。

癒しを必要とする人はだれ?

ところで今日の福音でも、「聞く」ことが大きな意味をもっています。しかし聖書が「聞く」というとき、それは決して自分のうちの欲望に耳をすませよというのではなく、律法を通じ、そしてついにはイエス・キリストを通して語られる神の声に耳をかたむけるよう促すものです。ですから、神に耳をすますことができず、ひたすら内なる欲望に耳をかたむける現代のわたしたちは、まさに「耳の聞こえない人」、そしてそのために語ることのできない「舌の回らない人」なのです。

癒しは神への「聞き」

イエスはそのような人に触れ、そして癒されます。その癒しは、「開け」という言葉とともに行われます。神に「聞き」、その言葉に心を「開く」ことが人間の根本的な癒しであることを、マルコは述べよう

としたのでしょうか。しかも、ここで使われている「舌の回らない人」という言葉は、イザヤ書35・6だけに使われているのだそうです。この箇所は今日の第一朗読で読み、救いのおとずれの時を具体的に表しています。つまり、イエスの癒しの業は、救いのおとずれを表現したものなのです。

人間が神の声にのみ聞き、聞くということは、神のみがおできになる救いのわざです。イエスのおとずれによってそれが可能になりました。わたしたちはすでに「はっきり話すことができる」(35節)のです。ではその言葉を少年少女たちに語り続ける責任があるはずです。



こんなにちはシスター

聖母訪問会 天台修道院

(写真右から)

(前列) Sr吉岡、Sr出口、Sr大槻
(後列) Sr田井、Sr関、Sr田村



京都府北部、日本海側の小都市舞鶴にある天台修道院は、自然のままの敷地の一角にあります。六人の姉妹の中五人までが、昔? 晓星、日星高校の教師でしたので、共同体としての使徒活動は、卒業生との交わり、アフターケアードに重きがおかれています。困難な状況になつた卒業生がいつでも飛び込んでくる事が出来るように、私達の心も修道院もいつも聞いておられます。敷地内の旧い修道院の建物は、これも暁星の卒業生であり、

元教師であった梅沢夫妻により、不登校の子供たちのための学びの場「聖母の小さな学校」として使われています。また隣には老人ホーム「真愛の家」があります。これらの施設と暁星、日星、聖母幼稚園への靈的協力と、西舞鶴、東舞鶴、綾部、報恩寺小教区での共同宣教司牧にお役に立ちたいと活動しております。

会の事業から退いた私達は、共同体の使徒職のほかに、個人的に使徒活動をしています。茶道や陶芸による宣教、あるいは菜園や果樹を、信徒の方々の助けを頂きながらEMを使って育て、分かち合っています。

勿論第一の使徒職は「祈り」です。関係する人々のため、世界のため祈りつづけております。一人ひとり個性がはっきりしていて、時々論争もしますが、車で京都まで聖書講座に行ったり、近くの体操教室に行ったり卓球をしたり、最後の人生を楽しむ事にも積極的です。でも何よりも、神様のひそやかな囁きに耳を傾け、その愛に心を合わせたいと努力し、しかも大きな夢を持っている、小さな共同体です。

元教師であった梅沢夫妻により、不登校の子供たちのための学びの場「聖母の小さな学校」として使われています。また隣には老人ホーム「真愛の家」があります。これらの施設と暁星、日星、聖母幼稚園への靈的協力と、西舞鶴、東舞鶴、綾部、報恩寺小教区での共同宣教司牧にお役に立ちたいと活動しております。

司教ブロック訪問 IN 上野教会

六月二十二日、雨が気になる空

模様の中、たくさんの人たちが上野教会で大塚司教様を囲むひとときを過ごすことができました。

全員でエレキギターの伴奏あり、ボルトガル語の共同祈願ありのイ

ンターナショナルなミサにあづかって、今回テーマ「信仰教育を一緒に考えよう」について分かち合いが行われました。

はじめに、中心になって意見を取りまとめられた教師会から「滞日外国人の対応」「親の教会への信仰」「信仰の家庭での浸透」などについて報告があり、司教さまからコメントをいただきました。

「それぞれに難しい問題で答えはこれまで聖書講座に行ったり、近くの体操教室に行ったり卓球をしたり、最後の人生を楽しむ事にも積極的です。でも何よりも、神様のひそやかな囁きに耳を傾け、その愛に心を合わせたいと努力し、しかも大きな夢を持っている、小さな共同体です。特に異宗婚（妻だけが信者・またはその逆）の方の場合にはそういう気持は周囲にも伝わります。特に異宗婚（妻だけが信者・またはその逆）の方の場合にはそういう気持は周囲にも伝わる……ということです。

また、滞日外国人の方から子供達への信仰教育の困難さや、言葉

の問題等が提起されました。滞日外国人も含めて一人一人に違いますが、あっても、教会として、共同体として一つになって関わっていくことが大事だということをおっしゃいました。

それぞれ難しいことですが、宿題をみんなと共に考えていくたいと思いました。

分かち合いの間、近くの上野城で一緒に楽しんだ子どもたちは名残惜しきよくならです。またいつか一緒に遊ぼうね。神様の祈りのうちに。

（久居教会 中西）



お
知
ら
せ

福音センターから

◆養成講座▼講演「カトリック教会の教え」13日(土)10時 河原町教会 岩島忠彦師 本文四頁

教区委員会から

◆聖書委員会▼聖書深読13日(土)10時 奥村 豊師 河原町会館六階▼聖書講座シリーズ3・4日Sr小久保喜以子 10・11日伊藤信子氏 17・18日高山貞美師 24・25日鳥巣義文師

◆典礼委員会▼主日のミサと聖体贊美式第一日曜日17時半 河原町教会▼衣笠カルメル修道会で行われてきました、教会の祈りと聖体贊美式は当分の間お休みします。

◆正義と平和京都協議会▼宗教と差別シンポジウム「殉教・信仰の今日的理義」28日(日)14時 河原町教会 三俣俊二名譽教授、本田哲郎師、司会 神林宏和師

◆聖ドミニコ女子修道院▼みことばを聴こう6日(土)14時 講師島田佳代子氏(長崎純心大学勤務)

修道会から

◆河原町教会▼市民クリスマスボスターコンテスト 締切30日問合せ 河原町教会 075(2)31)4785

◆衣笠教会▼チャリティーバザー

◆聖母教育文化センター▼日曜巡礼の旅—近畿のキリストンの遺跡—

◆ノートルダム女学院中学高等学園▼文化祭オーブンディ28日(日)13時半 長浜教会

◆奈良カトリック協議会▼例会21日(日)14時 大和郡山教会▼正義と平和奈良協議会21日(日)14時 大和郡山教会

◆聖母教育文化センター▼日曜巡回

◆ノートルダム女学院中学高等学園▼文化祭オーブンディ28日(日)13時半 長浜教会

◆聖母教育文化センター▼日曜巡回

◆聖ヴィンセンシオ・ア・パウロの家会▼河原町協議会14日(日)13時半▼京都中央理事会27日(土)13時半 河原町教会

◆高野教会▼チャリティーバザー

◆在世フランシスコ会▼京都兄弟会20日(土)13時半 フランシスコの家

◆二金会▼第二金曜日10時15分場所 西陣教会

◆糠みその会▼例会25日(木)19時45分 九条教会ホール

◆レジオ・マリエ▼コミチウム第3日曜日 河原町会館六階

◆ヴォーカル・アンサンブル 力

(グレゴリオ聖歌とルネサンス・ボリフォニーによるミサ形式の演奏会)10月27日(月)19時 河原町教会

◆京都カナの会▼結婚相談室・例会7日(日)13時半 河原町会館六階ホール

◆京都カトリック混声合唱団▼練習日14日(日)14時、27日(土)19時 河原町会館六階ホール

◆心のともしびラジオ番組案内

KBS 月~土5時 毎日放送 月~土4時50分頃

◆「一万匹の蠍運動」基金報告累計三七、六〇九、二二〇円

(七月十四日現在)

対象 青年男女 会費三百円
申込み 電話075(231)2017
Sr安達

15日(祝)
10月5日(日)

◆高野教会▼チャリティーバザー

◆在世フランシスコ会▼京都兄弟会20日(土)13時半 フランシスコの家

◆聖ヴィンセンシオ・ア・パウロの家会▼河原町協議会14日(日)13時半▼京都中央理事会27日(土)13時半 河原町教会

◆二金会▼第二金曜日10時15分場所 西陣教会

◆糠みその会▼例会25日(木)19時45分 九条教会ホール

◆レジオ・マリエ▼コミチウム第3日曜日 河原町会館六階

◆ヴォーカル・アンサンブル 力

(グレゴリオ聖歌とルネサンス・ボリフォニーによるミサ形式の演奏会)10月27日(月)19時 河原町教会

◆京都カナの会▼結婚相談室・例会7日(日)13時半 河原町会館六階ホール

◆京都カトリック混声合唱団▼練習日14日(日)14時、27日(土)19時 河原町会館六階ホール

◆心のともしびラジオ番組案内

KBS 月~土5時 每日放送 月~土4時50分頃

◆「一万匹の蠍運動」基金報告累計三七、六〇九、二二〇円

(七月十四日現在)

大塚司教の

9月のスケジュール

2日(火)	青少年委員会15時
3日(水)	中央協機構改革委員会 15時
4日(木)	中央協常任司教委員会 10時
4日(木)	(木)~6日(土) 神学生合宿
6日(土)	聖公会接手式10時
7日(日)	丹後大宮教会献堂50周年記念ミサ
9日(火)	共同宣教司牧推進事務局会議14時
10日(水)	教区協議会書記局会議 18時
11日(木)	福音センター訪問14時
14日(日)	司教ブロック訪問(桃山教会)
18日(木)	司教顧問会・責任役員会10時
14時	司祭評議会常任委員会
14時	常任司教委員会
19日(日)	東京カトリック神学院神の園竣工式
20日(月)	司教ブロック訪問(北白川教会)
21日(火)	青少年担当司祭交流会 18時

27日(土) 聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会ミサ

第五回共同宣教司牧推進チーム会議14時

28日(日) 京都教区 国際協力の日の集い(三重セン

トヨセフ女子学園)

青年のつどいです。
滋賀の唐崎メリノールハウスで
YES2003が行われます。
YESというのは年一回、青年センターガ主催する京都教区の

Y=Youth(青年)、E=Exchange(交流)・Encounter(出会い)・

Especial(特別な)・Eternal(永遠)・En

joy(楽しむ)等、S=Space(場所)という意味を持っています。文字通り青年の交流、出会いの場として有意義な場であってほしい、そしてこのYESが永遠につづいてほしいとの願いから命名されました。第一回目の開催であった昨年は約三十五名の参加者がありとてもにぎやかなものとなりました。

YES2003の企画を行つていくにあたり青年センター運営委員会のなかで様々な意見が出ました。昨年の反省、参加者の意見を取り入れてよりよいものにしたいと考えたからです。

議論の結果、YESを今後京都教区の各地区の青年たちが企画・運営していくことになりました。

YES2003について

新井由郁

そして各地区の青年の交流も視野にいれ、独自の地域性がでたらよいのではないかという結論に至りました。

そこで先頭を切つて滋賀地区

の青年センター運営委員を中心となつてただいま頭を悩ませて

いるところです。しかし、何とか成功させて次のYESにつなげていきたいという気持ちは共

有していますので、一生懸命で

きる限りのことをしていと思つています。

昨年のテーマは「地の塩、世の光」「私たちにできること」でした。今回のテーマは現在の段階ではまだ決定していませんが、「普段の何気ないところからみえるものを改めて考え直そう」というプログラムにしようと考えています。他の人の意見を聞くことによって今まで考へもしなかつたようなことが見えてくるかも知れません。未知数なYES2003ですが多くの青年と出会えることを楽しみにしています。詳細が決定しましたらお知らせしたいと思います。

編集部から

◆お詫びと訂正

309号(8月号)に間違いがありました。▼3ページ「社会と共に歩む教会」奈良教会結婚講座セミナーを結婚準備セミナーに、からし種コンサートの形態をグループに、街頭募金の形態を教会に訂正します。▼6ページ左下囲み、聖書委員会の電話番号を075

(211) 3484に訂正します。

青年センターあんてな

309号(8月号)に間違いがありました。▼3ページ「社会と共に歩む教会」奈良教会結婚講座セミナーを結婚準備セミナーに、からし種コンサートの形態をグループに、街頭募金の形態を教会に訂正します。▼6ページ左下囲み、聖書委員会の電話番号を075

(211) 3484に訂正します。

309号(8月号)に間違いがありました。▼3ページ「社会と共に歩む教会」奈良教会結婚講座セミナーを結婚準備セミナーに、からし種コンサートの形態をグループに、街頭募金の形態を教会に訂正します。▼6ページ左下囲み、聖書委員会の電話番号を075

(211) 3484に訂正します。